

風のたより178号

美味しく食べて、つながる幸せ
気持ちよく着て、つながる幸せ
手仕事の思いと時を手に取り、つながる幸せ

フェアトレードは世界でも貧しいといわれている国々の人たちの手による手作りの品々、食べ物や衣類や雑貨などがあります。出来るだけ農薬や化学肥料を使わない、また児童労働や強制労働を排除、安全で健康的な労働条件を守ります。

あなたは、「これ！安かった！！いくらだと思っ？！」と喜びのと「これは、有機農法や手作りの品で、とても手間はかかるけれど、環境に負荷をかけず、暮らしゆきに困っている人たちが、人らしい暮らしができるようになるフェアトレード産品で、この一つの買い物から作った人の顔を見えてくるほんわか幸せがあるの.....」と喜びを感じるのとどちらを選びますか？

作っている人が見えないから、いつか自分の幸せ（お徳感）が、誰かを犠牲に、地球環境を犠牲に、そして大量消費へとつながっていく「買うと言う選択」

作った人の顔が思いうかべられる、この地球上で分かち合える人としてものを大切にしたいへとつながっていく「買うと言う選択」

先進国の私たちはどちらも出来ます。

貧しいと言われる国々の人々は選択は出来ない。貧困のサイクルから抜けることは難しい。

フェアトレードの現場の事例1

■ バングラデシュ スワローズ

フェアトレード団体ピープルツリー(PT)のスタディツアー I love handy craft と題してバングラデシュの生産者を訪ねる旅に2012年の3月30日～4月6日の行程で参加。

手織り・手染め・手刺繍の衣類を作っているタナパラ村のスワローズを尋ねました。

首都ダッカから電車で6時間移動、フェアトレード団体のゲストハウスに泊まりました。

スワローズThanapara Swallows Dvelopment Society (タナパラ村)

フェアトレード団体ピープル・ツリー（東京）は18年前からの取引があります。

当時は30名ほどの生産者。現在は約240名。手織り・染色・刺繍などの生産に関わっています。

2009年に建ったクラフトセンターは2階建、ゲストハウスや学校も隣あわせです。午前・午後と2部制で300人が通う学校も訪ねました。生産者の子どもたちは無料。公立の学校に通えない子らも通うことができます。

□ ワイハイダさんへのインタビューより

ゲストハウスに泊まった翌朝7時に生産者さんの家を訪ねました。その家の女性の名前は、ワイヘイダさん。

彼女とは、その前日仕事場の織りをしていて、ふと立ち寄ったら「やってみる？」という感じで機織り機で織りのまねごとをさせてもらった人だったのです。素人が織ったら、あとでやり直しをしなければならない面倒なことを引き受けてくださった、その人に「こうしたらいいかとは何かありますか？」と尋ねた時、「デザインを良くして、もっと広めたい」と話された。



写真1 ワイヘイダさん

インタビューした私たちは、なにか不満があれば聞きだしたいと思っての質問でしたが、彼女の視野は、我が身のことではなく大きかった。

実際、25年間働いていて(推定45前後)、スワローズのマイクロプロジェクト・プログラムから無利子でお金を借り土地を購入して家を建て、また4人子どもさんのうち、一人娘の婚礼費用もお金をかりることができた。寒い時には毛布の配布もあり、生活の満足感を感じました。「この村に住んでよかったですか？」と尋ねた時は、笑顔で満足しているという返事。そのやりとりを見るために集まってきた子どもたちとも別れ、朝食に向かいました。

彼女の生い立ち

父を無くし、スワローズで働いていた母親も目を患い亡くなり、彼女もスワローズで働くようになった。夫は農業。

彼女の1日

朝6時に起き、家の回りを掃き、7時には畑に出かける夫を送り出してから、昼・夜の食事の準備をして出かける。9

～13 時、14～17時までが勤務時間、残業もあるけど、18時くらいまで。



写真2 スワローズ制作 2012年のカタログより

スワローズは、フレンドリーで代表のライハンさん上司にも直接話ができる。

デイケアセンターは、1月20タカで預けることができる。このセンターができたいきさつは、ある女の子が2歳の時両親を亡くし、そのためにデイケアセンターが出来た。その女の子は、ツアー一行歓迎の夜、主役で踊った子でした。とても上手で男の子たちの喝采を浴びていました。

ハンディキャップを持った人には、月10タカで健康保険に入れば、80%の医療費を負担する。スワローズの雇う基準は、生活に困った人を優先しています。

*****フェアトレードの現場の事例 2*****

■ ネパリ・バザー口の 福祉プログラム レポート (カタログVerda vol.34、2011年春夏より)

ネパリ・バザー口は子どもたちの教育支援、女性たちの自立支援を行ってきました。ホームの子どもたちへの支援は20年、セービングファンドも開始から4年が経ちました。

◇ セービングファンド

将来に備えた財形貯蓄システム。ワーカー本人と職場、ネパリの3者が、一定額をワーカー名義の口座に毎月積立てます。入院、手術、子どもの教育費などまとまったお金の必要な時以外は使えません。（ネパールでは、働く女性たちが、給料を自分の為に使う事はほとんどありません。社会保障の無い国でまとまったお金を必要とする時に役立つようはじめました。家族には内緒の積み立です。本人の意志で使えるように）



写真3 SHS

SHS（スパイシー・ホーム・スパイシーズ）はセービングファンドを一番早く開始。2006年にスタートし、ずっと勤続しているマヤさん、サラスワティさん、チャイトマヤさん、サーノマヤさんたちは今年とうとう6年目を迎えました。ファンドが喜びや励みとなり、仕事を誇りに思い、セービングファンドを将来の拠り所と思っていることをマヤさんが皆を代表して感謝の言葉を贈ってくれました。



写真4 ネパールカレー

電子メール : huzu@huzu.jp

ウェブページ : <http://www.huzu.jp/>

風の交差点 風"s